

出島



* 小野家文書134「肥州長崎図」

解説

1635（寛永12）年、江戸幕府はキリスト教の禁止を徹底するため日本人の海外渡航および海外に住む日本人の帰国をいっさい禁止しました。そして翌年、長崎の町人に命じて扇形に埋め立てた「出島」を作らせ、そこにポルトガル人を住まわせました。その後1639（寛永16）年にポルトガル人を追放し、1641（寛永18）年、平戸にあったオランダ東インド会社日本商館を出島に移しました。以後、出島は鎖国体制下の日本で唯一のヨーロッパ世界との接点となりました。

左の図では、長崎の町と橋で結ばれた出島の様子や、荷揚げのための波戸、出島内部の建物、旗竿などが描かれています。出島の左下方には唐人屋敷が見え、長崎町内には各藩の大名屋敷が描かれています。湾内には引き船にひかれたオランダ船や中国船の姿も見えます。

* 当館にはこのほか、出島を描いた絵図として「長崎図」（毛利家文庫 58絵図448）, 「長崎図」（毛利家文庫 58絵図449）, 「長崎出島絵図」（藤津家文書347）などがあります。